

# WEEKLY

例会場  
ロワジールホテル豊橋 TEL.0532-48-3131  
事務局 豊橋市藤沢町141  
ロワジールホテル豊橋本館9階 926号室  
TEL.0532-35-9973 FAX.0532-39-3743  
http://www.toyohashi-golden-rc.gr.jp  
email golden@toyohashi-golden-rc.gr.jp

RIメッセージ

地区方針

クラブ方針

フランチエスコ・アレッツォ会長

鈴木康仁ガバナー

神谷馨会長

UNITE FOR GOOD

ともに学び、ともに地域社会に貢献しよう!

新たな時代へ 理想の未来への挑戦  
環境変化に対応し、より魅力的なロータリークラブへ

第28回(通算1732回)例会報告	令和8年2月6日(金)	国際奉仕担当例会
ゲスト	NPO法人ABT豊橋ブラジル協会 事務局長 仲宗根ギリェールメ寛実氏 米山奨学生 ホアン ヴァン ナム君、東愛知新聞社 田中博子記者 東海日日新聞社 大林恭子記者	
出席報告	総会員数60名(計算会員数53名) 欠席9名 出席率83.02% 前々回修正出席率90.91%	
歌/会場	国歌・奉仕の理想	会場:ロワジールホテル豊橋 30F「ル・モン」12:30~

## 米山奨学金贈呈

米山奨学生 ホアン ヴァン ナム君



のすばらしさです。治安、食べ物、道路、鉄道等インフラ、日本の良さをもっと共有し日本が繁栄することに繋がればと思います。

本日はABTでご活躍されています元ロータリー米山奨学生の仲宗根ギリェールメ寛実事務局長による卓話です。国際奉仕 飯野益通委員長よろしくお願いたします。

## 誕生日祝い

お誕生日おめでとうございます!



加藤千映子会員

小笠原英彦会員

## 会長の時間



神谷 馨会長

皆さまこんにちは。奉仕の第四部門である国際奉仕は「書物などを読むことや通信を通じて、さらには他国の人々を助けることを目的としたクラブのあらゆる活動やプロジェクトに協力することを通じて、他国の人々とその文化や慣習、功績、願い、問題に対する認識を培うことによって国際理解、親善、積極的平和を推進するために会員が行う活動からなるものである」とあります。

私は29歳の時にユニセフのイベントにスタッフとして参加した事で国際奉仕の重要性を学びました。そしてフィリピンでの国際救援活動への参加も経験させて頂きました。企業活動としてはタイの子供たちに向けてメガネのプレゼント支援をしております。ゴールデンロータリー会員としてもフィリピンへの医療物資の贈呈など様々な国際奉仕活動に参加させて頂きました。

現在私たちゴールデンロータリーはグローバル補助金事業として、昨年より村松会員によるブータン王国に向けての素晴らしい国際支援活動が行われております。全世界が混沌の時代であるからこそ、私たちが求められている国際奉仕について考え行動する事が大切だと思います。そして活動を通して私がいつも感じる事は日本

## 入会記念日祝い



白井正樹会員

岡本久永会員

## 人生の岐路『あの時違う人生を歩んでいたら…』



加藤千映子会員

皆さま、本日は貴重なお時間をいただき、誠にありがとうございます。本日は「私の人生の岐路について」、少し長くなりますが、お話をさせていただきます。

人生を振り返ったとき、「あれが分かれ道だったな」と思える瞬間が、誰にでもあると思います。ただ、その時は、それが人生を左右する岐路だとは、なかなか気づきません。目の前のことで精一杯で、必死に生きているだけ。今日は、そんな“その時は気づかなかった岐路”を、振り返ってみたいと思います。

私の人生の最初の大きな岐路は、**18歳、高校卒業後**でした。

進学でもなく、安定した就職でもなく、アルバイトとして働き始めたのが、**P&A**という、**できたばかりの会社**でした。

当時の私は、正直に言えば、「自分が何者なのか」「何ができるのか」まったく分かっていませんでした。

自信もなく、将来のビジョンもありませんでした。

**P&A**は、本当に立ち上がったばかりの会社で、人も足りず、仕組みも整っていませんでした。その中で、私は自然と**人の手配**を任されるようになりました。

誰を、どこに、どんな現場に配置するのか。

この人は真面目だが緊張しやすい、この人は不器用だが人柄がいい。そんなことを考えながら、人を当て込んでいく。今思えば、この経験が、**今の私の仕事のすべての原点**です。

人を手配することをずっとやってきたおかげで、人を見ること、人を信じること、人に任せること。これは、今でも私の最大の強みだと思っています。

しかし、当時の私は、自分に自信があったわけではありません。むしろ、「自分はできない人間だ」そんな思い込みを、ずっと抱えていました。

そんな私を変えてくれたのが、**P&A**の社長でした。

失敗しても、「なんでできないんだ」とは言われませんでした。笑いながら、教えてくれました。そうやって、前を向かせてくれました。

この社長が、「**できない自分**」という私の概念を、**完全に塗り替えてくれた**のです。仕事を教えてくれた以上に、**人としての土台、自己肯定感を育ててくれた**そう感じています。

余談ですが、その社長は、人を育てるのは本当に上手でしたが、「自分の息子を育てるのは不得意だった」と、笑いながら話していました。

人を育てるといえるのは、それほど難しい。だからこそ、誰かに信じてもらえた経験というのは、一生消えない財産になるのだと思います。

その後、私は**27歳で会社を立ち上げました**。

**P&A**では、アルバイトとして、社員として、そして独立後も関わらせていただき、トータルで約**9年間**、お世話になりました。

そのご縁のおかげで、独立した当初から、仕事には比較的恵まれていました。起業すると、普通は「仕事がない」と言われますが、私は本当に人に恵まれていました。もちろん、順調なことばかりではありません。不安も、迷いも、失敗もありました。それでも、そのたびに支えてくれたのは、**人とのつながり**でした。

そして、次の大きな岐路が、**今から13年前**に訪れます。司会の仕事をしていた年末、何気ない会話の中で、私は聞きました。「なんか、いい商売ない？」すると、「放課後等デイサービスがいいですよ。簡単ですよ」そんな軽い返事が返ってきました。

「どうしたらいいの？」と聞くと、「市役所に行ったら教えてくれますよ」本当に、それだけでした。

こうして私は、障がい者施設を立ち上げることになりました。

最初から、強い使命感があったわけではありません。でも、関わる中で、支援を必要とする人、家族、現場で働く職員と出会い、この仕事の重みを、少しずつ理解するようになりました。

そしてさらに、思いもよらない岐路が訪れます。

**浜松市の5か年計画の中で、認可保育園の公募**が出たのです。

私は思い切って、市役所の保育課に行きました。「私でも、応募できますか？」すると、「できますよ」あっさりした返事でした。

続けて、こんな一言を言われました。「ただ、1か月で社会福祉法人を立ち上げた人はいませんがね…」

正直、迷いました。無理だと思いました。でも同時に、「公募が通ったら、やるしかない」そう腹をくくりました。

結果は、**見事、公募を通過**。定員120名の認可保育園です。

そこからが、本当の勝負でした。社会福祉法人を、**わずか1か月で立ち上げる**。無謀とも言える挑戦でした。しかし、ここでも支えてくれたのが、**仲間**の存在でした。浜松商工会議所のメンバーの皆さまが、理事として参加してくださいました。

一人では、絶対にできませんでした。本当に、仲間に恵まれている。心から、感謝しています。

すったもんだの連続でしたが、現在は、認可保育園として、**安定的に運営**することができています。

保育の現場に関わるようになり、私は、ある確信を持つようになりました。

**保育とは、子どもを預かる仕事ではない。**

**人の人生の基盤をつくる仕事だ。**

0歳から6歳。この時期は、人間の土台がつくられる、最も大切な時間です。自己肯定感、他人への信頼、挑戦

する気持ち、失敗しても立ち上がる力。すべてが、この時期に育まれます。

思えば、18歳の私が、「できない自分」から抜け出せたのも、誰かに信じてもらえたからでした。

だからこそ、子どもたちには、「あなたは大丈夫だよ」そう伝えられる場所を、つくり続けたいと思っています。

ここまで振り返って思うのは、人生の岐路は、大きな志や立派な計画から始まるわけではない、ということです。何気ない一言。たまたまの出会い。そして、信じてくれる人の存在。損得なく、ビジネスのことを共有できる仲間がいること。これは、本当に尊いことです。

ロータリークラブも、まさにそうした「人と人のつながり」の場だと感じています。

これからも、私はきっと、何度も岐路に立つと思います。迷い、悩み、立ち止まることもあるでしょう。

それでも、18歳のときに教えてもらった「人は、信じてもらえれば変えられる」その原点を忘れず、人と人をつなぐ仕事を、続けていきたいと思っています。

本日は、私の人生の話にお付き合いいただき、誠にありがとうございました。



#### 鈴木雅善会員

ただいま紹介していただきました鈴木雅善です。私の人生の岐路ということで、昨日から自分の人生を振り返って色々考えてきました

けど、あまりにも人生が波乱万丈で激しい人生を51年間送ってきたものですから、岐路だらけでした。その中でここ数年で自分の人生の礎となった岐路がこれかなあと思い、それを選んで話させていたきたいと思います。

それは、私の実家が今になると豊橋で70年続くパン屋。製パン業でヨシノパンというパン屋をやっていました、そこの次男として私は生まれました。長男がいて、姉がいて、私がいる。今となると、私が今そのヨシノパンを作っているという形になっています。そこに辿り着く先というのも色々ありました。

8年前になりますが、ヨシノパンはそもそも学校給食、豊橋の小中学校の半分くらいの主食を製造していました。そこそこ安定した会社ではあったのですが、工場の老朽化、兄である社長が事故に巻き込まれ体を悪くし、製造をやめるといふ報告を兄から受けました。私は兄と離れて別の仕事をしていたので、世間から惜しまれる声も多かったのですが、「兄が決めたことならば、それは仕方がない。人口が減っていく中で学校給食も減っていくので、今決断の時かもしれないね。」と言い、ヨシノパンの製造を終えました。

その当時、私は豊橋駅前の広小路で洋服屋を営んでい

たのですが、コロナウイルス感染の流行で、広小路の人通りも両手で数えられるぐらいしかありませんでした。仕事はうまくいかず、借金を抱え、私は藁にも縋る思いでした。

その当時流行っていたタピオカに飛びつき、どうにかその場しのぎの現金を生むことができました。しかし、タピオカもどんどん流行りが巣立っていく中で何をしようと考えていた時に、豊橋駅前の丸栄が廃館になると聞き、その中であつたクレープ屋も辞めると聞き、最後、スイーツパーラーを作って、クレープ屋を復活させようと思いました。そこで、ヨシノパンで流行っていたチーズパンも売ろうと考え、兄に相談しました。兄は「やりたいならやってくれ」と許可をいただき、チーズパンを復活させることができました。

スイーツパーラーを営んでいたところ、たまたま中京テレビ系列で「このチーズパンも豊橋のソウルフードの一つです」と言ってくれ、キヨスクさんやクックマートさんに卸売をさせていただくことが出来ました。

小さなお店でクレープとチーズパンを作っていたのですが、製造のキャパがだんだん狭くなり、「うちのパンが社会に役立てれるように、もしよかったら障害者施設で作ってくれないか」と友人にお願いしたところ、「うちの会社を引き継いでほしい」と言われ、今では障害者の方々と一緒にパンを作っています。

今振り返ってみると、親にも兄にも散々迷惑をかけてきて、時には「お前はヨシノパンの面潰しだ」とまで言われました。兄とも決していい形で別れたわけではなかったのです。ヨシノパンは、祖父、祖父から父、父から兄という形で三代続いてきたわけですが、直系からずれている立ち位置の私が今でもこうやってヨシノパンを続けられていて、先祖に少しでも恩返しが出来ているのかなあと思っております。この先もいつまで続けていけるかはわかりませんが、このままこの豊橋に根付いたものを作っていけることができたらなあと思っています。そのためには、皆さんの力をお貸ししていただきたいときもあると思いますので、今後とも末永く、よろしくお願ひいたします。

今日は、このような貴重なお時間にお話しさせていただく機会をいただきまして、ありがとうございました。

### 国際奉仕担当例会 「歴史が紡ぐ「生活者」としての共生 ～ブラジル移民の軌跡と、 豊橋から描く日本の人材戦略～」



#### 飯野益通国際奉仕委員長

みなさんこんにちは。今年度国際奉仕委員長をさせていただいております飯野と申します。

本日は、国際奉仕担当例会にお集

ありがとうございます。  
趣旨説明と講師の紹介をさせていただきます。

今年度、国際奉仕委員会では、地域の国際社会を知り国際交流を行う事を目的に活動しております。  
豊橋で多く生活されているブラジル人の皆様の状況を知るため、今日お招きした ABT 豊橋ブラジル協会の仲宗根様にご協力いただき少しづつブラジル人・日系ブラジル人の皆様の生活が見えてきました。

では講師の仲宗根ギリェールメ寛実氏(なかそねギリェールメひろみ)を紹介いたします。

仲宗根ギリェールメ寛実氏 プロフィール

- ・15歳で来日し、ブラジル人学校「イーエーエス豊橋」を経て、愛知大学国際コミュニケーション学部を卒業。
  - ・アルバイト、カナダへの語学留学を経験。
  - ・豊橋市で初となる外国人職員として採用される。
  - ・民間企業への転職を経て、NPO 法人 ABT 豊橋ブラジル協会事務局長に就任。
- 現在に至ります。

今回テーブルにご用意させていただいたポスターは仲宗根様ご家族のブラジルそして日本への移住の歴史がわかるものです。ご本人に了承を得て参考資料として配置させていただきました。

これは昨年10月に豊橋けいりんで開催された「日伯交流130周年記念イベント」で掲示された、30名ほどの日系ブラジル人のファミリーヒストリーポスターの1枚です。

今日のお話と資料で少しでもブラジル人の皆さんの状況を知っていただけたら幸いです。  
どうぞよろしく願いいたします。

### NPO 法人 ABT 豊橋ブラジル協会

事務局長 仲宗根ギリェールメ寛実氏



0. はじめに  
皆さま、本日はこのような貴重な機会をいただき、誠にありがとうございます。私は、NPO法人ABT豊橋ブラジル協会にて活動しております。私自身、ブラジルで日系三世

として育ち、15歳で日本へ渡りました。今日この場に立てるのも、ロータリー米山奨学制度によって学ぶ機会をいただいたおかげであり、心より感謝申し上げます。



**豊橋市とABT (豊橋ブラジル協会)**

■ 【概要】 データ (2025.1.31)

- 総人口 365,818人
- 日本籍 344,143人
- 外国籍 21,675人

■ ブラジル 8,617人

■ フィリピン 5,272人

■ ベトナム 1,725人

■ 中国 1,214人

■ インドネシア 1,137人

→豊橋市在住外国人市民の40.1%

→ブラジル人が多い街 全国2位

【参考資料】 豊橋市HP <https://www.city.toyohashi.lg.jp/5254.htm>

■ Associação Brasileira de Toyohashi

■ 2004年 任意団体として設立

■ 【起源】

行政と在日ブラジル人コミュニティとのコミュニケーション改善、ニーズ把握、問題解決提案 → 中間支援団体

■ 2008年 NPO法人格取得

■ 【目的】

日本社会への統合

→生活支援

→ブラジル人同士のネットワークづくり

→子どもたちの健全育成

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

最近、メディアでは「外国人」という言葉が溢れています。しかし、数日の滞在を楽しむ「観光客」と、出稼ぎとして数か月、あるいは永住を視野にこの街に根を下ろす「生活者」は、全く別の存在です。今日は同情や理想論ではなく、豊橋の「生活者」のリアルと、これからの日本の姿を率直にお話しします。

1. 「送出」は国策、そして「学校」が核だった  
日本からブラジルへの移住は、1924年から1993年まで続いた、国家の運命を賭けた\*\*「国策」\*\*でした。政府は船賃を全額補助し、大規模な組織的送出を行いました。  
興味深いのは、当時の日本人コミュニティが「学校」を核に形成されたことです。当時の一世たちは「いずれ日本に帰る」ことを想定していました。だからこそ、ブラジル生まれの二世にも日本人としての規律と教育を受けさせる「装置」、つまり学校を移住地と一緒に輸出しました。敗戦後、帰国を諦めた後も、教育を重んじるメンタリティは変わりませんでした。また、ブラジルの「出生地主義」により、二世以降がブラジル国籍を持ち、その国の一員として堂々と教育を受けられたことも重要です。その結果、サンパウロ市で人口のわずか1.2%の日系人が、大学合格者の約15%を占めるという驚異的な教育成果を生み出しました。これは能力の問題ではなく、

「教育を核とした環境設計」の結果なのです。

2. 歴史の逆転：生活者としての「デカセギ」

1980年代後半から90年代、ブラジル経済は極めて不安定でした。1990年の最初の3か月、インフレ率は毎月70～80%に達しました。初期に30万円あっても、購買力は3か月で元の20%未満、つまり5万6千円程度まで激減したのです。私は子供の頃、給料日に家族で分担し、その日のうちに1か月分の食料を買いだめしました。そうしないと、月末には何も買えなくなるからです。さらに預金封鎖が追い打ちをかけ、多くの中小企業が倒産しました。

一方、日本はバブル経済。1990年の入管法改正により、日系人とその家族の受け入れが本格化しました。日本で1か月働けば、ブラジルの最低月収の25倍、裁判官並みの給料が稼げる。この圧倒的な経済格差が「逆流」を生み出しました。

しかし、日本政府の最大の失敗は「受け入れ設計」でした。彼らを「生活者」ではなく、いつでも調整可能な「労働力」として扱ったのです。外国人が「この地の一員だ」という意識を持てるような言語教育や社会保障の整備を後回しにした結果、30年以上日本を支えてきても、老後の年金がわずかという過酷な現実を生んでしまいました。

3. 「今」を生きる防衛本能と目に見えない苦しみ

豊橋に住むブラジル人たちの暮らしを見てください。新築の家を買い、車を所有し、一見安定しているように見えるかもしれませんが、しかし、その実態は不安定な派遣労働が主です。

豊橋在住のブラジル人の半数以上が、今なお不安定な雇用環境に置かれています。

彼らの「今、目の前のものを手に入れる」という姿勢は、かつての経済不安や治安から家族を守るために身につけた、いわば\*\*「防衛本能」\*\*です。しかし、その刹那的な選択が、時として子どもの教育投資を妨げ、未来を狭めてしまうことがあります。

さらに、コミュニティの心は疲弊しています。2019年のWHOデータでは、ブラジルは「不安症」で世界3位、「うつ病」で5位と、実はメンタル疾患の発症率が非常に高い国です。

豊橋市国籍別人口×国別（現地の）発生順位 (IHME調査2016データ、2019発表)

国籍（豊橋順位）	人口	自殺	うつ病	不安障害	女性（被害）
日本	347880	25	107	200	31
1 ブラジル	8666	98	5	3	2
2 フィリピン	5079	171	168	59	25
3 ベトナム	1699	90	128	203	22
4 中国	1204	79	104	170	23
5 韓国・朝鮮	1086	4	121	166	30
6 インドネシア	1054	168	151	148	24
7 ペルー	690	163	55	28	?
8 ネパール	408	67	170	170	?
9 カンボジア	181	130	167	62	16
10 タイ	147	74	89	160	10

豊橋でも、私たちの仲間がうつ病で自らの命を絶つたことをきっかけに、令和元年からメンタルヘルス事業を開始しました。昨年度は臨床心理士1名で、1,500件を超える予約に対応し、1401時間のカウンセリングを実施しました。陽気なイメージの裏で、目に見えないところで苦しんでいるケースが少なくありません。

**主な活動**

① **メンタルヘルス事業**

【What】 ブラジル人向けメンタルヘルス事業  
 【Why】 ブラジル人の自殺件数が増加したため  
 2017(12)→2018(18) (厚生労働省HPより)  
 \*2023(24) <https://www.mhlw.go.jp/content/2024-1-1-03.pdf>  
 身近な人が2人自殺  
 \*\*2015年～在名古屋ブラジル総領事館  
 \*\*\*他国の領事館における心理カウンセリングなし

【When】 2019年～パイロットプロジェクト  
 9-18h (火・水・土) 14-21h (木・金)

【Where】 豊橋市内  
 ① ABTにて対面 (2020年、オンラインへ)  
 ② 豊橋市立小中学校

【Who】 豊橋市×ABT×心理士\*  
 豊橋市民、国籍、年齢

【How】 予約順  
 【How much】 1500円 (→0円→1500円) → 2200円




**R6年度について（実績）**

■ 委託事業（豊橋市）

【体制】 1回あたり50分  
 【対象者】 豊橋市民  
 1※時間制限（9～17時）にて豊川市、湖西市、浜松市、岡崎市等  
 【予約件数】 1516件  
 【実施件数】 1401件  
 2※一日当たりの相談者数、6.3人（平均）

【継続相談者】 約60名以上（月平均）  
 【新規相談者】 77名




4. 教育の壁と「見えない天井」

現在、豊橋には日本で生まれ育った「外国人」が大勢います。しかし、ブラジル人学校に通う子の中には、日本育ちでも日本語能力が十分でない子が約半数います。公立校に通う子も、日常会話はできて、学習に必要な抽象的な「学習言語」が不足し、高校や大学進学で「見えない天井」に突き当たっています。

私の甥や姪も日本で育っていますが、制度上は「外国籍」であり、日本には外国籍児に対する公的な就学義務がありません。親が教育に無関心であれば、彼らは社会の隙間からこぼれ落ちてしまいます。これは単なる福祉の問題ではなく、この街の貴重な若手人材を「放置」しているという、国家的な戦略損失なのです。それでも光はあります。ABTの日本語教室では、昨年12月の日本語能力試験で10名の合格者が出ました。学びの場があれば、彼らは必ず応えてくれます。

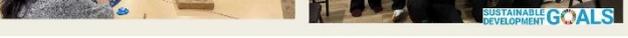
**主な活動 (R5)**  
**令和6年度 就労のための日本語教室**

- 委託事業 (豊橋市)
- 【目的】 ①就労につなげる、  
②JLPT N5合格
- 【回数】 34回 計102時間  
(3時間/回)
- 【定員】 20名
- 【条件】 ①豊橋在住、②JLPT受験、  
③16歳以上
- 【応募】 68名 (45+23名)
- 【受講】 528回
- 【出席率】 84%
- 【辞退者】 4名
- 【結果】 6名 (N5 合格者数)



**新規事業 (R6)** 「外国にルーツがある人々への支援活動応援助成」

**ABTのフリースクール (新事業 1月より)**  
**【目的】** 子どもたちの学習・憩い・交流の場  
**孤立を防ぎ、社会とのつながりを支援**  
**【対象】** 小中学生・高校生・不登校  
**【日時】** 火・水・木・金 午後3～6:30



**求められる言語能力について**  
**日本語能力試験×世界基準 (CEFR)**

JLPT Level	Study Hours Required	Unofficial CEFR Equivalent	Kanji Requirement	Approximate Pass Rate
N5	300-500 hours	A1	~100 Kanji	~50%
N4	600-1000 hours	A2	~300 Kanji	~35%
N3	1000-1700 hours	B1	~600 Kanji	~40%
N2	1700-2500 hours	B2	~1000 Kanji	~40%
N1	2500-4500+ hours	C1	~2000 Kanji	~30%

https://www.britishcouncil.jp/programmes/english-education/updates/4skills/about/cefr

**国の目標** B1  
**市の目標** A2  
**【現状】** 実働に行政が提供しているレベル A1

5. 経営者の皆さまへ：共生は「人材戦略」である  
 日本はすでに統計上の\*\*「移民国家」\*\*です。全在留外国人のうち、永住者や定住者など日本に根を張る人々は約6割を占めています。  
 労働力として一時的に呼び込む視点だけでなく、「すでにこの街にいる若者」をどう育て、どう活かすか。これが日本の将来を左右する人材戦略そのものです。彼らはもはや「お客さん」ではなく、この豊橋という社会を支える「主(あるじ)」の一人です。  
 結びに代えて私たちはABT 豊橋ブラジル協会として、日々彼らの声を聞いています。「日本の未来に、どんな人材を残したいのか。そして、その人材を誰が育てるのか」。この問いを、今日お集まりのリーダーである皆さまと共有し、共に「交流共生社会」を築いていければ幸いです。  
 本日はご清聴、誠にありがとうございます。

**オブリガード**  
**ありがとうございます**  
**ごさいます**

NPO ABT

【連絡先】 (0532) 39-3437 / info@npoabt.jp  
 愛知県豊橋市若屋町字若屋下62-87

★ニコボックス  
 神谷 馨・高橋哲也：本日は飯野国際奉仕委員長として卓話を頂く仲宗根ギリエールメ寛実様よろしくお願ひ。  
 鶴殿健次：ようこそ仲宗根さん！よろしくお願ひ。  
 小笠原英彦・加藤千映子：誕生日をお祝い頂き。  
 岡本久永・白井正樹：入会記念日をお祝い頂き。

加藤千映子・鈴木雅善：会員スピーチをさせて頂き。  
 飯野益通：国際奉仕担当例会です。よろしくお願ひ。  
 山口幹夫：例会参加の支援に感謝します。  
 山下 孝・杉田和俊：3/13 まであと4回例会に出席します。還暦仲間の杉田さんと飲む回数もあとわずかです。さびしいです。  
 札木聖巳ニコボックス委員

★幹事報告  
 ・2026-27年度版「ロータリー手帳」のご案内、2026年台北国際大会通信が届いております。

- ★他クラブの例会変更
- 2月16日(月) 豊橋南RC 東三河分区IM
  - 2月17日(火) 宝 飯RC 創立40周年記念式典
  - 豊橋北RC 職場訪問例会
  - 田原バRC 分区IM参加
  - 2月23日(月) 豊橋南RC 豊橋東RC合同例会(サシ無)
  - 2月25日(水) 渥 美RC 免々田川菜の花桜まつり(サシ:2月21日(土)RC事務所)
  - 豊橋東RC 豊橋南RC合同例会
  - 2月26日(木) 豊 橋RC クラブフォーラム